

国際ロータリー 第2500地区 第4分區  
**遠軽ロータリークラブ**  
 THE ROTARY CLUB OF ENGARU, AREA 4, RID2500  
**第3066回例会記録**  
 日時: 2023年 3月30日(木)12:30~  
 会場: ホテルサンシャイン2F  
 司会: 石井 朋子 SAA③  
 ★開 会 点 鐘: 高井 一博 会長  
 ★国 歌: -  
 ★R ソ ン グ: 我等の生業  
 ★四つのテスト: -



2022~2023  
**Weekly Report No.35**  
**本日のプログラム**  
 4月 委員会担当例会  
 6日(木) 12:30~ メディア委員会  
 4月 夜間例会  
 13日(木) 18:00~ 懇親会  
**次回のプログラム**

**久木 佐知子 RID2500 ガバナーズローガン: ともに紡ごう! ロータリーの未来へ**  
**高井一博遠軽RC会長スローガン: 奉仕しよう 現在(いま)そしてあすにむけて**

**会長報告 高井 一博 会長①**

今日の例会は、出席委員会西会員②によります卓話です。よろしくお願いいたします。

いよいよ今夜、北海道ボールパークFビレッジにて北海道日本ハムファイターズの新球場によります、2023プロ野球開幕戦が楽天イーグルスを相手にプレーボールされます。

2004年東京より北海道に移転し、札幌ドームを本拠地として道民の球団と称されて野球ファンを楽しませてくれました。先のWBCで活躍した選手はもとより、コーチ陣ほかスタッフもこの札幌ドームから国内外にて広く活躍されております。

2002年サッカーワールドカップの日韓大会に合わせて開業した札幌ドーム。大規模コンサートも開催され比較的アクセスの良さも手伝い、当クラブは元より私個人的にも幾度と足を運びました。

2016年、球団側が新しい本拠地スタジアム建設の検討を始めました。ドーム管理者の札幌市に1試合当たり1,600万円、年間で13億円の費用の負担に加え、日本ハムとファイターズ球団には競技での命名権や広告での収益が無かった上、高額な賃貸料とスタジアム内販売収入の減少、多目的施設ゆえの融通の悪さなどが日本ハムに独自のスタジアム建設を推進させる事となりました。

北広島市は、インフラ整備費の負担、日本ハムへの土地無償賃貸、球場その他の公園施設に対する固定資産税と都市計画税を10年間免除することで合意し、きたひろしま総合公園敷地が日本ハムの新しい本拠地の新球場として選定・決定されたという経緯があります。

このエスコンフィールド、本塁とバックネット迄の距離不足問題の件も改修は行わず、野球振興協力金を支払う事で解決が図られました。

また、次代を担う高校球児に、2023年夏の高校野球南北海道・北北海道大会の準決勝と決勝の計6試合を同球場にて無償提供し開催する事も決定しており、地域にその存在をアピールします。

新しいホームスタジアムと、新庄監督2年目の2023北海道日本ハムファイターズ。「日本一しか目指さない」シーズンを皆さんで応援しましょう。



**幹事報告 乾 淳 幹事**

・例会終了後、理事会を開催します。

**委員会報告**

◇大西 孝拡 次期幹事④

4月16日(日)、紋別で開催の地区研修・協議会について、当日の予定表等を配布しました。

当日はマイカー乗合で移動しますが、まだ午後開催の分科会会場の連絡が来ていませんので、確認でき次第、配車運行表を再度配布します。

【名前後の○数字は写真の番号】

# 本日のプログラム 会員卓話 自利と他利について

出席委員会 西 清治 会員②

まず最初に、経営方針、生き方などまったく対照的な「稲盛和夫氏(京セラ)」と「永守重信氏(日本電産)」のお二人についてお話しします。著書を読み、私の自分の勉強のためにと書き留めていたお二人の創業者の経営姿勢や経営者としての生き方などをこの席で述べ、会員の皆様と共に考えてみたいと思います。もう一人、特に尊敬する「自利とは他利」の理念を實踐し後進を導いた、TKC会計事務所の創始者飯塚毅氏についても触れさせていただきます。

初めに、稲盛和夫氏を知ったのは、「稲盛和夫の実学一経営と会計」を買ったのがきっかけでした。稲盛氏はこの著書の中で「もともと技術屋で、経営に関してはまったくの素人ではなかった私が、手探りで見出した経営の原理原則と言うものをまとめたものである」と説明しております。分かりやすく、経営のあり方を学ぶ上で私にとって大切な1冊となり幾度か繰り返し読むこととなります。

私のクラブの後輩が今税理士をしており、「中小企業のお助けハンドブック(社長の便利長)」を発行して、私に一冊送ってくれました。彼はその本で、稲盛氏の著書の「キャッシュベースで経営する」「儲かったお金はどうなっているか」の部分をそのまま引用して、稲盛氏が重視するキャッシュ・フロー経営の重要性と必要性を説明しており、儲けたお金の存在について解説しています。

「期末の決算報告を終えた経理部長に対して、「儲かったお金はどこにあるのか」と尋ねたことがある。彼は、「利益は売掛金や在庫、また設備など、さまざまなものに姿を変えているので、簡単明瞭にどこにあると言えるものではない」と答えた。そこで、さらに踏み込んで、「利益から配当しなければならぬ」というのが、それだけの金はどこにあるのか」ときいた。経理部長は利益は手持ちの資金としては無く、配当資金は銀行から借りる予定であると述べた。私はそれが非常に不思議に思えたので、「配当するお金がなくて、わざわざ銀行から借りてくるのでは、儲かったと言えるだろうか?」と尋ねた。経理部長は、「はい、それでも儲かったというのです」と答えた。そこで損益の数字の動きと、実際のお金の動きとを、はっきり結びつけて説明するように求めた。経理部長は貸借対照表(バランスシート)の各勘定の動きを追いながら、当期利益と減価償却から出てきた資金がどのようになったかを説明した。そこで、私はやっと現金の収支のみから成り立つ会計であれば出てこないような、固定資産、棚卸資産、受取手形、売掛金などというさまざまな勘定科目がバランスシートにあらわされていることがわかった。売掛金や在庫が増加すればお金はそこに吸い取られてしまっているし、借入金返済すればお金が消えてしまう。儲かったお金がどういう形でどこに存在するのか、ということをよく把握して経営する必要があるとそのとき私は痛感したのである。

税理士の彼は、このやり取りをいわゆる、「勘定あって銭足らず」の状態を分かりやすく述べていると言います。そこでこのような決算書利益(損失)と資金の関連を明確にする計算書として、「(C/F)キャッシュ・フロー(お金の出入)計算書があり、(C/F)を重視して、稲盛氏は営業活動に加えて、投資活動や財務活動によるキャッシュの増減がトータルで計算され、キャッシュの総額が明確に把握できるのだ」とい、このような米国式の『キャッシュフロー』の会計報告を京セラでは1990年より実施していると述べています。

「儲かったお金はどうなっているか」の問答は経営に携わる私にとっても非常に参考になりますし、今後の営業に生かしていかなければならないと思います。

この本の中から経営者にとって、参考になる稲盛氏が戒める商売の原則をいくつか羅列してみました。

「売上を最大に、経費を最小に」「売上を増やしなが、経費を増やすのではなく、経費は同じか、できれば減少させるべきであって、そういう経営がもっとも道理にかなっている」「投機は行わない」「額に汗して得る利益こそが企業が追求す

べき真の利益」「当座買いの原則」「一升買いの原則」「中古品で我慢」「健全会計に徹する」「固定費の増加を警戒」「株式より全従業員の物心両面の幸福を追求する」「他を利するところにビジネスの原点がある」「利他に徹すれば物事を見る視野が広がる」などです。

次に日本電産の永守重信氏です。カリスマ的経営者でその経営理念は目標達成のためには、人事においても厳しく、業績や株価の低迷などに対しては部門の担当役員の責任を追求し降格、役員報酬の減額など容赦のない決定を下します。何よりもトップを目指す性格です。

日本電産が今の本社ビルを建てた時に、竣工式に稲盛氏を招待します。社長室に置いてあったお祝いにいただいた植木を見て稲盛氏は、水やりや枯れた後の始末を指摘し「そんなムダな事をしていたら、日本電産はいつまでたっても京セラに追い越せない」と言います。お祝いでもらったものであるが、そこからコストが発生する。そこでコストに敏感な稲盛さんの姿勢に、京セラの強さをあらためて感じた「永守重雄の人材革命」の著書の中で述べております。

最近の日本電産は「情熱、熱意、執念」「知的ハードワーク」「すぐやる、必ずやる、できるまでやる」の日本電産の三大精神に代表される永守イズムを注入して、さまざまな困難を打破して世界一のモーターメーカーとなり大きな変貌を遂げつつあります。

なお、5S「整理、整頓、清掃、清潔、しつけ」の日本電産の社員教育方針は遠軽の某大型店のバックヤードにも掲示されています。

本日の卓話で特にお話したかった事は、「自利トハ利他ライウ」の信念を貫いた飯塚毅氏と稲盛和夫氏の、経営哲学の共通点についてです。お二人とも名声を得ても「世のため、人のために貢献する」「他を利するところにビジネスの原点がある」であり、他を利することが結果として自利となってお互いの繁栄と幸福に還元されるとして、その姿勢を守り抜いた企業人であり会計人でした。稲盛氏の経営理念と人間性を尊ぶ心は京セラの企業のみならず「盛和塾」の多数の会員に引き継がれました。多くの人材が育ち、今立派な経営者、社会人として全国で活躍しておられます。

TKCにおいて後進会計人を租税正義に徹する集团会計人へと導くことになる飯塚毅氏は100年か200年に一人しか生まれてこない人と言われ、その真髓は「自利トワ利他ライウ」の哲理を実践したことです。

「バンガード」51号掲載の「精神は高邁にサービスは厳密に」の飯塚毅氏と後継者の飯塚真玄氏との対談の中から一部を引用します。

「僕は自分の関与先に対しても経営指導が猛烈なんです。この前も「あなたはお金だけを追いかけているが、金だけを追いかけ成功した人はいない。そんな人は世の中からだんだん捨てられていく、そんな簡単な事がわからないのか、ときつく言いました。半年ほどたって「あの経営者はその後どうした?」とうちの職員に聞くと、あれから百八十度方向転換し、とことん相手に尽くすという態度に変わった。すると、お客さんが来て仕方がない。それで、「支店を出したいのですが、相談に乗ってください」という風になっていました。いつも言うことですが、「自利とは利他をいう」—それいかに徹するかだと思いますね。」

「バンガード」誌上の飯塚毅氏の対談に『自利トハ利他ライウ』は幾度ともなく出てまいりました。その度にこの理念を肝に銘じ、努力をしなければと思いつつも、自分の利益のみに偏り、現実にはなかなかそう簡単には行きません。

稲盛氏や永守氏の著書やビジネス誌、TKCのバンガード誌などから引用させていただいた箇所が多々ありますが、その引用部分が企業活動を続けていく上で会員の皆様にも多少なりとも参考になれば幸いです。「自利トハ利他ライウ」この理念をロータリー会員の皆様はどう考えますでしょうか?

**ニコニコBOX** 2022-23年度 合計477,000円

☆閉会点鐘：高井一博会長☆今号会報担当：佐藤直也委員

2022-23\_35th-02

出席報告							編集・発行：メディア委員会		
例会日	会員数	出席計算会員数	出席者数	メイクアップ	出席率	無断欠席	委員長：加藤幸徳 副委員長：東海林勉		
須藤順一	3月23日	41	39	27	4	79.5%	委員：上田 稔 佐藤直也 棚橋 忠		
出席委員長⑤	3月30日	41	39	29		74.4%	前島英樹 山田荘一		

2022-2023年度 国際ロータリー

会長：ジェニファー E.ジョーンズ(カナダ)  
第2500地区ガバナー：久木 佐知子(旭川西RC)  
第4分区ガバナー補佐：久保 元(雄武RC)

遠軽ロータリークラブ www.engaru-rc.com

会長：高井一博 副会長：藤田礼三  
会長エレクト：高橋義昭 幹事：乾 淳  
会計：島田光隆 S A A：石井朋子  
直前会長：本間克明 事務局員：岡本奈津美

Rotary



◇1959年9月12日創立/1959年11月7日認証

【事務局】〒099-0415 北海道紋別郡遠軽町若見通南1丁目 遠軽商工会議所内  
Tel 0158-42-5201 Fax 42-5134 E-mail: info@engaru-rc.com

【例会場/日】北海道紋別郡遠軽町大通北1丁目 ホテルサンシャイン Tel 0158-42-1151 毎週木曜日12:30~13:30 \*第3木曜日は夜間例会 18:00~(19:00)